

成人者へのメッセージ

大人としての一歩はあいさつから



教育長 小沢 貞義

新年明けましておめでとうございませう。

今年が、町にとつても健やかで、人ひとりにとつても健やかで、よい年になりますよう祈りたいと思ひます。

この一月九日には、恒例となりました下諏訪町成人式が行われます。成人されるみなさん方には、未来の下諏訪町を担う若き力として大いに期待し、祝福のメールを送ります。

本紙では、毎年このコーナーで成人者に大人になることへの抱負や心境を寄せていただいで

きました。

「：何をしても人のせいばかりにしていた自分がいた。社会に出てたくさんのつらいことを経験し、何回もの挫折を味わった。しかし、そんな自分を支えてくれるのが家族であり、皆さんの仲間だった。」

そのときはじめて『いつも、誰かのせいじゃなくて、誰かのお陰なんだ。』ということに気づいた。」

「これまで私を育て、支えてくださった両親や全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。」

自分に恥じることない人生を



西浜町 宮坂 祐司

二十歳という節目を迎えて、改めて思うことがある。親元を離れた今、高校生まで親元で暮らしていた自分の毎日の生活が、家族の手によって支えられていたこと、そして自分が、そのことを当たり前と感じていた傲慢な人間であったことを自覚した。

大学生となり様々な人と出会い、アルバイトを始めた。学業とアルバイトの両立は、自己の責任と強い自覚が必要で、働いてお金を手にすることの厳しさを痛感した。と同時に、今まで二十年間も自分を育てるために働いてくれた両親の苦労にも気づかされた。これまでの二十年間が家族によって支えられて今日を迎えられたことに感謝し、成人となるこの機会に心から「ありがとう」と言いたい。

さて成人となり、自分では一端の大人だと思つていてもまだ半人前で、自立して社会に出る前に学ばなければならぬことがたくさんあり、以前にもまして責任や大人としての自覚が必要とされると思う。この先何度となく、失敗や挫折を味わうと思う。がそれでも、己の人生は一回きり。今まで自分を支えてくれた家族やお世話になった皆さんの人、そして何よりも自分自身に対して、恥じることをない人生を送つていきたいと思う。

ご成人おめでとうございませう

～出会った全ての人に感謝しながら～



町では今『石仏の心に響くあがり』をキャッチフレーズに、小さくても温かいあいさつの輪が、家族や友人、隣人そしてやがてこの町全域に広がるよう、万治の石仏をモチーフにしたポスターを配布させていただいています。

「こんにちは」：は、人につながり明日につながる感謝のことば、周りへの感謝のことばは、新たな感謝を生み出す幸せなことばでもあるように思ひます。「感謝を形に」。大人としての新たな一歩は、先ず自分から発するひと言のあいさつからです。自分を押し出す小さな勇気と人を敬う謙虚な心をもつて、明るい社会づくり、町づくりに向けて共に歩んでまいりませう。

花のように月のように
そのやさしきで包み込むよ
万治の頃からこの町を見つめ
遙かな夢を語り続けるよ

人と人が心通わすあいさつの響き、それはきつと石仏様の心に響き、相手の心と自分の心に潤いと新たな希望をもたらせてくれるに違ひありません。「ありがとう」「おはよう」



自分の力で生きていくということ



東山田 朝貝 亜佳音

私は今、親元を離れ、本州の最北端の大学に通つていて、下諏訪に簡単に帰ることができません。そして普段遠く離れているからこそ、長期休みを利用して仲間たちと再会したときの喜びや安心感は大いいものです。そんな仲間たちと一緒に成人を迎えることができたことを、本当に嬉しく思ひます。

大学生になつて、独り暮らしを始め、自分のことは全て自分でするようになり、自分の力で生きていくことの大変さを知りました。掃除、洗濯、炊事などはもちろん一人でやらなければならぬし、自分のいけない所を叱ってくれる人もいません。自分が想像していた以上に、今までの家族の存在が大きかったかを知りました。他にも、つらいことがあつたとき友人に支えてもらつて、友人の大切さが身に沁みたり、嫌なことがあつても我慢しなければならぬときがあることを知つたりしました。独り立ちの第一歩を踏み出していくことで、学んだことも数多くありました。こうやって様々なことを学びながら大人になつていくのだと思ひます。

いよいよ大人の仲間入りです。家族、友人、先生など多くの人に、私は成長させてもらつています。今まで出会つた全ての人に感謝し、そして人間として立派な大人になれるよう日々努力していきたいと思ひます。